障害児教育実践センター研究紀要　第5・6号，33-57，2008

<資　料>

視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラムについて

田中由紀子*・小林　秀之**

要旨：視覚障害乳幼児の概念発達に必要な領域及び発達の道筋を明らかにするとともに，公表されている各種指導プログラムとの関連性を重視し，発達を促すための指導内容・方法を明らかにすることを目的として，視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラムを作成した。具体的には，文献研究および調査研究により作成した試案を，実践研究にて検証し，最終的に指導プログラムとして整理した。

本報告ではそのプログラムを紹介するが，視覚障害乳幼児の概念発達を促すために，盲学校幼稚部および教育相談等で活用して頂きたい。

キーワード：視覚障害乳幼児，概念，指導プログラム

Ⅰ．はじめに

視覚障害児に生じる発達の壁は，一般的な概念発達において重要な質的変化のある時期と重なっていることが示されている。「歩けない」という第1の発達の壁は，「ものの永続性」の概念が未獲得であることも要因となっていることから，指導の際に，「あるけない」という一側面のみでなく，要因となっている概念に視点をあることで，バランスの取れた全体的な発達を促せるのではないかと考えた。

また，盲学校では，生活経験のみでは獲得できない力を育てるため，様々な指導プログラムを活用し，指導を行ってきた。しかし，指導プログラムごとに示された内容のみを指導しがちであったり，領域が遅れがちな指導内容にとどまったりしているため，繰り返し指導を行っても，伸びがみられないことがあった。また，概念については，焦点化された指導が十分に行われていないのが現状である。さらに，幼児期は小学部の学習を支える基礎的な力を完成させたいが，実際には未完成である例が少なくないため，小学部の指導の際に困難が生じている。これらのことから既存の指導プログラムと関連させた，指導内容・方法を示すことが必要であるといえる。

そこで，視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラムを作成した。作成にあたっては，文献研究および調査研究，さらに実践的な検証を行った。調査研究においては，盲学校において視覚障害乳幼児に指導経験の豊富な先生方より，貴重な意見をいただいた。

また，本プログラムの指導内容は小学部以降の学習を支える基礎的能力を完成させる段階である幼児期に獲得する必要があり，かつ視覚障害により日常生活経験のみでは獲得しにくいものとした。これまでの方法では獲得しにくかったと思われる内容を精選し，指導や評価がしにくいといわれていた概念指導に，1つの方向性を提案できればと考えている。

Ⅱ．視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラムについて

本プログラムは，達成目標（指導項目）の全体像を把握するための一覧表と指導内容・方法などを示したプログラムからなっている。

1．一覧表について

1）領域：本プログラムは，Table 1に示したとおり，6つの領域からなっている。

2）発達段階：発達段階は，広 D-K 式視覚障害児用発達診断検査に対応させている。区分は Table 2に示すとおりである。

3）関連するプログラムについて：公表されている各種視覚障害児用指導プログラムのうち，次に示す指導プログラムと本プログラムで同一の指導となる場合には，その旨を明示した。なお，一覧表には（行）（手）

*広島県立広島中央特別支援学校
**広島大学大学院教育学研究科障害児教育学講座

Table 1　領　　域

領域番号	領域名	領域番号	領域名
1	外界との関係	2	対概念
1)	もの	3	数量
2)	視覚刺激との結びつき	4	ボディイメージ
3)	視覚以外の感覚刺激との結びつき	5	基本図形
		6	空間

Table 2　発達年齢区分

発達段階	年齢	発達段階	年齢
Step 1	0：0～0：3	Step 4 前期	1：6～1：11
Step 2 前期	0：4～0：5	Step 4 中期	2：0～2：5
Step 2 後期	0：6～0：8	Step 4 後期	2：6～2：11
Step 3 前期	0：9～1：2	Step 5 前期	3：0～3：11
Step 3 後期	1：3～1：5	Step 5 中期	4：0～4：11

Table 3　視覚障害が影響を及ぼす程度についての基準

段階	基　準
A	視覚障害がほとんど影響を及ぼさない項目
B	視覚障害が影響を及ぼすが，教材・教具など視覚障害に配慮した指導の中で，比較的容易に獲得できる項目
C	視覚障害が影響を及ぼし，教材・教具など視覚障害に配慮した指導を行っても，達成することがかなり困難な項目
D	視覚障害の影響で不可能な項目

などの表記としている。

・「視覚障害乳幼児用行動発達指導プログラム」：(行)
・「視覚障害幼児用手指訓練指導プログラム」：(手)
・「視覚障害幼児用感覚訓練指導プログラム」：(感)
・「視覚障害幼児用言語指導プログラム」：(言)
・「初期視覚学習プログラム」：(視)
・「保有視機能活用指導プログラム」：(保)
・「広D式弱視児用形体概念学習カード」：(体)
・「発達段階別歩行指導法」：(歩)
・「始歩－白杖導入期用盲児歩行指導プログラム」：(始)

4）あらゆる場を利用した方がよい項目について：あらゆる場を利用して，取り組んだ方がよい項目については，一覧表および本プログラムに★印をつけた。

5）「全盲」用・「光覚～指数弁」用・「弱視」用の指導項目について：視力障害の程度により，「全盲」用・「光覚～指数弁」用・「弱視」用の指導項目がある。それぞれ，「全盲」用：【盲】，「光覚～指数弁用」：【光】，「弱視」用：【弱】と記した。

2．プログラムについて

1）達成目標：達成目標を＜　＞内に記し，↑の後は，その項目を獲得できたと考える具体的行動を示している。なお，取消線については，5）－(2) で説明している。

2）視覚障害の程度：視覚障害の程度を，「全盲」「光覚～指数弁」「弱視」の3つに区分している。

3）視覚障害が影響を及ぼす程度：視覚障害がそれぞれの具体的行動の達成にどの程度影響を及ぼすかについて，ABCD の4段階で記している。その基準は，Table 3に示すとおりである。ただし，ABCD の基準はこれまでの生活経験や保有視力の程度により異なるため，必ずしもこの限りではない。

4）障害別の指導内容：視覚障害の程度により，「全盲」用，「光覚～指数弁」用，「弱視」用に分けて，指導内容・方法を記している。

5）指導内容・方法（例）：前述の「視覚障害が影響を及ぼす程度」に応じて，記載内容が異なる。

(1) Aの場合：項目は記載していない。

(2) BまたはCの場合：指導内容・方法として，具体的行動目標達成のための内容・方法を例示的に示し

ている。その内容が，各種指導プログラムの同一項目に該当する場合には，プログラム名および項目番号を【　】内に記している。

原則として，指導内容・方法（例）の記述をもとに，指導を行い，指導実施後は，それぞれの指導項目が獲得されたかどうかを判断する。また，具体的行動目標の項目が難しいと判断した場合には，その段階以前に抜け落ちている項目があると考えられるため，「前段階の学習」欄を見て必要な指導を行う。

なお，達成目標欄の具体的行動の一部を削除すれば可能になる場合には，具体的行動に取消線を引き，指導内容・方法（例）欄に「消すと○」と記載し，その指導内容・方法を記している。さらに，達成目標欄の具体的行動一部を変更すれば可能な場合も，取消線を引き，指導内容・方法（例）欄に変更内容を記載し，その指導内容・方法を記している。

(3) Dの場合：項目は記載していない。

6）前段階の学習・発展学習：指導項目の中には，「前段階の学習」および「発展学習」が記されている項目がある。「前段階の学習」は，その指導項目を指導する前に獲得しておきたいと考える内容である。「発展学習」は，その指導項目を獲得した後に行う発展的内容を記している。時期が明確なものについては，その時期も合わせて記載している。

3．活用にあたって

1）指導内容・方法について：指導内容・方法（例）は1つの例としてとらえ，対象乳幼児の実態に応じてより適切な方法をとったり，項目間でスモールステップを踏んだりするなどの配慮を行っていくのがよいと考える。

2）関連するプログラムについて：現場では個別の指導計画を作成し指導が行われており，その際，さまざまな指導プログラムが活用されている。本プログラムの中に，各種指導プログラム名とその項目番号を明記することで，該当乳幼児に必要な指導内容や領域間の発達の関連が見えてくるような配慮を行った。

また，これまで概念指導として活用されてきた「視覚障害幼児用感覚訓練プログラム」（中川他，1986）の前段階にあたる乳幼児にも活用できると考えている。

3）指導項目について：本プログラムでは，手指による操作活動を取り入れながら，机上で行う指導内容を中心としている。これは，盲学校幼稚部での自立活動の個別の指導時間や教育相談の相談時間を想定しているためである。

4）適用年齢について：本プログラムの適用年齢は，概ね発達年齢0才から5才程度を考えている。それぞれの時期により必要な指導のスタンスがあるが，本プログラムでは，小学部での学習を目指したベースを作るためのボトムアップ型の指導を前提としている。したがって，生活年齢では，小学部低学年程度までを想定している。

5）評価について：本プログラムの活用にあたっては，適切な評価が欠かせないと考える。したがって，目標設定は，広D式視覚障害幼児用発達指導計画立案システム（五十嵐他，1993）で示されている発達予測のような方法を併せて活用するとよいと考える。

付　記

本指導プログラムは，平成16年度大学院派遣研修において作成した修士論文「視覚障害乳幼児の概念発達を促す指導のあり方に関する提言ー概念の発達を軸とした指導プログラムの作成とその適用の効果からー」の一部である。

文　献

五十嵐信敬・青山祥二・猪平真理・渡辺須美子(1971) 盲幼児発達指導シリーズ1，盲児の歩行能力の発達とその指導．盲幼児発達指導研究会．

五十嵐信敬(1993)視覚障害幼児の発達と指導．コレール社．

五十嵐信敬（1994) 目の不自由な子の感覚教育百科．コレール社．

坂井裕美・丸山里枝・横田昌子（1999)「新版弱視児用形体概念学習カード」の作成．平成10年度広島大学　学校教育学部卒業論文．

千田純子・伊藤真理子・佐野満木子（1986）視覚障害幼児用言語指導プログラム．視覚障害教育実践研究，1，93-108.

古川伸子（1987）盲児の歩行指導．昭和62年度特殊教育内地留学研修報告書．

山田祥子（2005）弱視幼児の形体認知指導に関する一考察～絵じてんと弱視児用形体概念学習カードの形体の項目比較を通して～．平成16年度広島大学教育学部卒業論文．

(2008.1.24受理)

視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラム一覧表

年齢	発達段階	1.外界との関係			2.対概念	3.数量	4.ボディイメージ	5.基本図形	6.空間
		1)もの	2)視覚刺激との結びつき	3)視覚以外の感覚刺激との結びつき					
～0:03	Step1		1)人・ものを注視する。(保)【光・弱】 2)動く人・ものを追視する。(追視①)【光・弱】						
～0:08	Step2 後期	1)ものへ手を伸ばし，他の場所へ移動することができる。(歩) 2)小さいものへの注意(ものの形①)(行)	3)ものを180°追視する。(追視②)(視)【光・弱】 4)身ぶりの模倣をする。(模倣①)【弱】 5)喜怒の表情がわかる。【弱】						
～1:02	Step3 前期	3)布で隠れたものを取り出す。 4)容器に砂を出し入れする。(砂①)【盲・光】 5)戸を開け閉めする。(ものの用途①)★【盲・光】	6)道具に応じた動作の模倣をする。(模倣②)【弱】					1)はめ板をはずす。(円) 2)はめ板をはめる。①(円)(保) 3)角孔に丸棒を入れる。(孔入れ①)	1)室内の方向・位置の弁別・探索(歩)【盲・光】 2)場所の弁別★
～1:05	Step3 後期						1)必要に応じて，自分の身体部位を動かす。★		
～1:11	Step4 前期	6)ものの形の違いにより，分けて並べる。(ものの形②) 7)水を容器から出す。(水②)【盲・光】 8)水を容器にうつす。(水③) 9)砂にスコップで穴を掘る。(砂②)(手)	7)ものの動きの予測的追視をする。(追視③)【弱】	1)ものと音が一致する。【盲・光】	1)大小比較①(3つ)		2)身体部位に触る。①(目，耳，口，その他，身につけているもの)(言) 3)身体部位を触る。②(鼻，髪，歯，へそ，つめ)	4)はめ板をはめる。②(三角形，四角形，円)(保) 5)ぐるぐる丸を描く。(手)	3)位置関係の理解①(2つ)【弱】 4)位置関係の理解②(3つ)【弱】
～2:05	Step4 中期	10)道具にあった動作をする。(ものの用途②)(形)			2)大小比較②(5つ) 3)大小の理解(言)(感) 4)多少の理解(感)	1)数を数える。①(3まで)【盲・光】	4)身体部位の名前を言う。(10種類)(言)(始)	6)角孔に角板を入れる。(孔入れ②) 7)縦・横線を描く。(手)(始)	5)上・中・下・左・右の理解(2つ)(言)
～2:11	Step4 後期		8)色がわかる。(保)(言)【光・弱】		5)長短の理解(言) 6)高低の理解(感)			8)基本図形の形合わせをする。(保) 9)丸を描く。(図形描き①) 10)応用図形の形あわせをする。①(保)【弱】	6)積み木でトラックをつくる。(積み木①) 7)位置関係の理解③(3列×3行) 8)積み木で家をつくる。(積み木②)
～3:11	Step5 前期	11)砂に穴を掘る。水を入れる。(砂③)【盲・光】	9)画用全部に絵を描く。(絵①)		7)重軽の理解(言)(感) 8)遠近の理解 9)深浅の理解	2)数を数える。②(10まで)【盲・光】	5)身体部位を絵に描く。①(耳，脚，足，腕，手，眉毛，眼，頭髪，首筋のうち3つ程度)	11)一つの丸を描く。(図形描き②)(手) 12)十字を描く。(図形描き③) 13)応用図形の形あわせをする。②【弱】	
～4:11	Step5 中期	12)砂山でトンネルを掘る。(砂④) 13)信号を渡る。(ものの用途③)(体)	10)色を使った絵を描く。(絵②)(形) 11)思ったものを絵に描く。(絵③)【盲・光】			3)数を数える。③(13まで)	6)身体を中心にした左右を言う。(始) 7)身体部位を絵に描く。②(耳，脚，足，腕，手，眉毛，眼，頭髪，首筋のうち6つ程度)(始)	14)正方形を描く。(図形描き④) 15)三角形で四角形をつくる。(感)	9)横に並んだものの位置を覚えてたたく。

※.【盲】は全盲用，【光】は光覚～指数弁用，【弱】は弱視用の項目であることを示しています．★印については，あらゆる場を利用して取り組んだ方がよい項目を示しています．
※各種関連指導プログラムの表記は次のように記しています．・「視覚障害乳幼児用行動発達指導プログラム」：(行)・「視覚障害幼児用手指訓練指導プログラム」：(手)
・「視覚障害幼児用感覚訓練指導プログラム」：(感)・「視覚障害幼児用言語指導プログラム」：(言)・「初期視覚学習プログラム」：(視)・「保有視機能活用指導プログラム」：(保)
・「広D式弱視児用形体概念学習カード」：(体)・「発達段階別歩行指導法」：(歩)・「始歩―白杖導入期用盲児歩行指導プログラム」：(始)

視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラム

1．外界との関係　1)もの

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 2 後期	～0:8	**≪ものへ手を伸ばし，他の場所へ移動することができる。≫** ↑ 1)~~遠くに提示された~~玩具に手を伸ばしたり，移動しようとする。	全盲	C	・「連続した音を聞いて」なら○。音を鳴らして，音の方へ手を伸ばしたり，這おうとさせる。 ・【発達段階別歩行指導法領域4-Step2-2】 ガラガラなどをすぐ近くで振り，とらせる。方法は，音を出す，手に少し触れさせて知らせるなどが良い。提示場所は，手を伸ばしやすいところから行う。おもちゃは，興味・関心のあるガラガラ・オルゴール・振動するおもちゃなどが適切。		
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	C	・「全盲」と同一の方法 ・はっきりとした色のものを提示物として，使用する。背景色とのコントラストもはっきりするような環境に配慮する。		【初期視覚学習プログラム・Ⅳ－2-1)】 ・多用途探索机上に玩具を置き，探索操作させる。玩具は，子どもの興味や発達段階に応じたものを使用。 ・多用途探索机にハンギングパネルを設置し，吊した光源や玩具を操作させる。
		≪小さいものへの注意(ものの形①)≫ ↑ 2)ボタンなどの小さなものに~~注意を向けて~~いじる。	全盲	B	・「手で触れさせると」なら○。 【視覚障害乳幼児用行動発達指導プログラム　Ⅱ-1-B-d】 ・ビー玉や，スイッチボックスのスイッチにふれさせたり，つまませたりする。 ・音や感触でフィードバックするものからはじめるとよい。 ・机上に置き探索させるようにする。		【本プログラム1-1)-6)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム1-1)-6)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・コントラストを明確にし，視覚的探索をさせる。 ・ステップアップ：探索範囲狭い→広い		＜0:4～1:6過ぎ＞ 【保有視機能活用指導プログラム・4－1)・2)・3)・4)】 ・ホワイトボード上に，目標物(大きさ6cm以下)を置き，探索してとらせる。 置くもの：目標物と他の物5個→目標物と他の物2種類5個→マグネット10個 ・「全盲」と同様。
Step 3 前期	～1:2	**≪布で隠れたものを取り出すことができる。≫** ↑ 3)布で全部隠れた自動車をとり出す。	全盲	C	・「触察して」なら○。 ・興味を持っているおもちゃの音を出し，探索して取らせる。 ステップアップ：音が持続的に聞こえるおもちゃ→断続的に聞こえるおもちゃ		
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・はっきりした色にしたり，縞模様にするなど，提示の際のコントラストを明確にする。 ・おもちゃを隠した後，見つける過程を事前に見せる。 ・視覚提示の際，対象を動かし，より注目できるようにさせる。		
		≪容器に砂を出し入れすることができる。(砂①)≫ ↑ 4)砂いじりを好み，砂を容器に入れたり，出したりして遊ぶ。【盲・光】	全盲	B	・空き容器を準備し，入れたり出したりする動作を教え，させる。	・砂に十分触れさせる。 例：砂遊び，泥遊び，畑いじりなどで	【本プログラム1-1)-9)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	【本プログラム1-1)-9)】
		≪戸を開け閉めする。(ものの用途①)≫★ ↑ 5)戸をあけることがわかる。(障子やふすまを，一人で開けたり，閉めたりする。)【盲・光】	全盲	B	・動作を教え，戸を触らせ，開け閉めさせる。		・戸が開いている時と，閉まっているときの違いを知らせる。例：人の出入り，風，戸の外からの音の大きさの違い 【本プログラム1-1)-10)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム1-1)-10)】

Step 4 前期	～1:11	**≪ものの形の違いにより，区別して並べる。(ものの形②)≫** ↑ 6)家族の茶わん，はしなどを知っていてならべる。)(食卓で，他の人の物と自分のと区別ができる。)	全盲	C	・指示を聞きながら，食卓の上のお盆やランチョンマット上に，それぞれの食器を，並べさせる。食器：プラスティックとコレール食器など，材質・形・大きさを変えバリエーションをもたせたる。感触の違うシールなどを貼ってもよい。	【本プログラム1-1)-2)】	
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-2)】	
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・色や柄，大きさや形を変え，特徴的な違いを見て判断させるようにする。お盆やランチョンマットなどのコントラストを明確にする。	【本プログラム1-1)-2)】	
		≪水を容器から出す。(水②)≫ ↑ 7)びんなどに水を入れて，こぼして喜ぶ。【盲・光】	全盲	B	・バケツの水を触らせ，空き容器で，すくってこぼさせる。水が出て行く様子を手の感触や音で確認させる。空き容器：ペットボトル・プラスティックのコップや茶碗など。 ・対象物：「空き容器と水」，「玩具と具体物」など		【本プログラム1-1)-8)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム1-1)-8)】
		≪水を容器にうつす。(水③)≫ ↑ 8)コップからコップへ水をうつす。	全盲	B	・コップ2個を用意し，一方に半分くらいの水を入れ，うつしかえさせる。 ・ステップ：(対象物)「小豆などの具体物」→「水」。 ・具体物を移し変える際には，缶のふたなどを下に置き，落ちたことを音でフィードバックさせる。	【本プログラム1-1)-7)】	
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-7)】	
			弱視	B	・色がはっきりしたコップを使用して，うつしかえさせる。 ・場合によっては，色水を使って，水をわかりやすくする。		
		≪砂にスコップで穴を掘る。(砂②)≫ ↑ 9)砂場でスコップを使って穴を掘る。	全盲	B	【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅣ2-Step2-3】 砂場でスコップをもたせ，砂をすくって穴を掘らせる。はじめはスコップに砂が入っていることを手で確認させる。掘った穴も手で確認させる。	【本プログラム1-1)-4)】 ・砂場で砂を手で掘る。	【本プログラム1-1)-11)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-4)】 ・砂場で砂を手で掘る。	【本プログラム1-1)-11)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・コントラストを明確にする。		
Step 4 中期	～2:05	**≪道具にあった動作をする。(ものの用途②)≫** ↑ 10)~~ままごと道具をいっぱい並べて~~遊ぶ。	全盲	B	・「道具の用途を知って，用途に見合った操作をして」なら○。 ・スプーンなど身の回りにある道具を持たせ，それに見合った動作をさせる。 対象物：日常生活でよく使う，身の回りにある道具(実物)。	【本プログラム1-1)-5)】	【本プログラム1-1)-14)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-5)】	【本プログラム1-1)-14)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 【広D式弱視児用形体概念学習カード】の活用		【本プログラム1-1)-14)】
Step 5 前期	～3:11	**≪砂に穴を掘る。水を入れる。(砂③)≫** ↑ 11)砂場で水を使って池を作る。【盲・光】	全盲	B	・スコップや手で穴を掘り，バケツに汲んだ水を入れて，手で確認させる。 ステップアップ：土や粘土など崩れにくいものでつくった穴に触れさせる。→砂の穴に触れさせる。	【本プログラム1-1)-9)】	【本プログラム1-1)-12)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-9)】	【本プログラム1-1)-12)】

Step 5 中期	～4:11	**≪砂山でトンネルを掘る。(砂④)≫** ↑ 12)砂場で砂山にトンネルを通す。	全盲	B	・砂山のトンネルを掘らせ，手で確認させる。 ステップアップ：やわらかい粘土でつくった山を触らせ棒を使ってトンネルをつくる動作を一緒に行い，触れさせる。→砂のトンネルに触れさせる。	【本プログラム1-1)-11)】	
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-11)】	
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		
		≪信号を渡る。(ものの用途③)≫ ↑ 13)信号を見て正しく道路を渡る。	全盲	C	・「音声式信号の音を聞いて」なら○。 ・交差点の信号の赤・黄・青の意味を知らせ，青の時に渡らせる。 ・自動車の走行音や停止時のエンジン音などと，信号の赤・黄・青との関連を意識させる。	【本プログラム1-1)-10)】	【発達段階別歩行指導法・領域2-5-5】 ・車道と歩道の関係・交差点の構造等，道路に関する知識の習得。信号の役割の理解。横断歩道で，挙手。人は右側，車は左側の規則の習得。実行させる。
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム1-1)-10)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・視覚認知と合わせて，音声・車の動きを確かめさせる。 【広D式弱視児用形体概念カード】の活用 説明：手がかりになる形。形以外の属性や用途。 ・基本の図を覚えた後，他の角度から描かれた別の絵も見せる。 ・色や鉛筆などで輪郭をなぞって，形を確認させる。	【本プログラム1-1)-10)】	

1．外界との関係　2)．視覚刺激との結びつき

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 1	～0:3	≪人・ものを注視する≫ ↑ 1)人の顔をじいっと見つめる。(物，顔などをじっと見つめる)【光・弱】	光覚～指数弁	B	【保有視機能活用指導プログラム・1-4)】 ・興味のある玩具や回転する玩具を提示し，注視させる。音や光源を併用してもよい。提示の際には，背景の明るさや逆光に注意する。 ・手動弁・指数弁の場合のステップアップ：光るおもちゃ→光らないおもちゃ		
			弱視	B	・「光覚～指数弁」と同一の方法。 ・家族など身近な人が，話しかけたり，歌を歌ったりしながら，顔などを子どもの顔の正面に持っていき，注視行動を促す。 ステップアップ：「子どもの顔の正面→子どもの見える位置」→「正面」→「いろいろな位置(方向)にあるもの」		
		≪動く人・ものを追視する(追視①)≫ ↑ 2)みた物(ガラガラ，顔，そばで歩く人など)を目で追う。【光・弱】	光覚～指数弁	B	・近距離で興味のある玩具を動かし，追視させる。光源でもよい。対象物は，コントラストを高くする。 ステップアップ：光るおもちゃ→光らないおもちゃ		【本プログラム1-2)-3)】
			弱視	B	・「光覚～指数弁」と同一の方法。 (対象物：音源あり→なし) (対象物の大きさ：大→小) (対象物の移動：近い距離→遠い距離) (スピード：ゆっくり→速く) ・PC両面を活用してもよい。	【初期視覚学習プログラムⅢ-1】 TV画面プログラムの追視(動体)　11・12	＜0:4～＞ 【保有視機能活用プログラム2-1)】 ・興味のある玩具類を水平・垂直・斜め方向にそれぞれ動かし，追視させる。 【本プログラム1-2)-3)】
Step 2 後期	～0:8	≪ものを180°追視させる(追視②)≫ ↑ 3)走らせた玩具の自動車を追視できる。【弱】	弱視	C	【初期視覚学習プログラムⅢ~1.2】 ・机上にマットを敷き，音を出さずにビー玉・ミニカーなど本人の興味のあるおもちゃを動かし，追視させる。対象物と背景のコントラストをつけるとよい。 (提示方法・対象物：机・ミニカー→机・王冠→ボード・王冠) ・TV両面プログラムの追視　13・14・15　移動軌跡の追視	【本プログラム1-2)-2)】	・頭を動かしながら，机上で，ゆっくり動く対象を追視させる。 (ステップアップ：狭い範囲→広い範囲・ゆっくり→速いスピード。方向：水平→上方→下方→斜め方向) 〔40～50cm程度の距離〕 縞模様の空き缶を机上で転がし追視させる。ボールを転がして，空き缶を倒す遊びの中で追視させる。 〔近距離〕 縁のあるお盆(縦30cm×横50cm程度)を使って，ビー玉などの対象物の動く範囲を限定し，追視させる。 【本プログラム1-2)-7)】
		≪身ぶりの模倣をする(模倣①)≫ ↑ 4)身ぶりをまねする。(オツムテンテンなど)【弱】	弱視	B	・目前で声かけしながら，動作をしてみた後にさせる。指導者の動作は，ゆっくり大きくする。 ・体の動きを指導者が手で持って示し，動作をさせる。 (方法：拍手の音を聞かせ，手を添えて→一人で) ・介助は対象児の後方からするとよい。 ・身振りの真似は起こりにくいため，言葉と動作を結びつける。		【本プログラム1-2)-6)】
		≪喜怒の表情が分かる≫ ↑ 5)親しみと怒った顔がわかる。【弱】	弱視	B	・本プログラム1-2)-4)弱視用と同一の方法。		・怒った顔は，眉のあたりにしわを寄せ，口をへの字の形にすることを知らせ，指導者が手で，顔の動きをさせる。怒られたことを思い出させる。笑った顔も同様の方法。
Step3 前期	～1:2	≪道具に応じた動作の模倣をする(模倣②)≫ ↑ 6)おとなのやることをやりたがる。(字を書く。箸を使うなど)【弱】	弱視	B	・身の回りにある道具を使った後，同じ動作をさせる。 対象物：日常生活で，よく使われている道具の実物。	・実物で，道具を理解させ，名前を覚えさせる。 【本プログラム1-2)-4)】	

Step4 前期	～1:11	≪ものの動きの予測的追視をする(追視③)≫ ↑ 7)走らせた玩具の自動車が衝立の後ろを通過して，出てくるはずの所をあらかじめ注視する。【弱】	弱視	C	走るおもちゃの自動車を追視させた後，衝立を置き，予測的追視させる。衝立と背景のコントラストをはっきりさせ，区別できるようにさせる。自動車は一定の方向にしか走らないことを確認させる。 (衝立の幅：短い→長い) (スピード：遅い→速い)	＜0:6～1:6すぎ＞ 【保有視機能活用プログラム4-1)・2)・3)・4)】 ・ホワイトボード上に6cm以下の目標物を置き，探して取らせる。 (ステップアップ) (対象物の大きさ：6cm以下の目標物→直径2cmのマグネット) (対象物の数：1個→10個) (対象物：指定なし→指定あり) ・ボードに書いた印を指で押さえる。 ・紙面上にランダムに点を配置して，指で指させる。 (見つける対象：指定無し→指定有り) 【本プログラム1-2)-3)】	
Step4 後期	～2:11	≪色が分かる≫ ↑ 8)赤，青，黄，緑がわかる。(遠)(K:3:00)(新：4／4)【・赤，青などの色の名前がわかり，そのただしい色をさす。(準)】【光・弱】	全盲	D	・不可能		・実物の概念がある程度育った後の時期に，実物と色の結びつきを伝える。
			光覚～指数弁	B	・「赤・青・黄・緑の名前がわかる」なら○。 ・手動弁で色がわかる場合には，指示された色カードの色名を言わせる。その際，見やすい位置で見せる。		・色のイメージを伝える。
			弱視	B	【保有視機能活用指導プログラム　領域7-8-6)】【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ－1-Step3-④】 赤・青・黄・緑の色カードを提示し，指示した色カードを選ばせる。	・2種類の色カードの色が，「同じ」か「違う」か言わせる。 ・数種類の色からなるセットを2組与え，同じ色同士を組み合わせる。 ・1つだけ違って，後は同じ色の数枚の色カードのうち，違う色カードを選ばせる。 ・同じ色のない数種類の色カードを見せ，見本と同じカードを選ばせる。 ・具体物で形は違うが，色は同じものを集めさせる。 ・指示された色のカードを選ばせる。 ・具体物と同じカードを選ばせる。 ※眼疾患などから区別しにくい色を把握し，提示する色カードを決める配慮をす	・指示された色カードの色名を言わせる。 ・色のイメージを伝える。
Step 5 前期	～3:11	≪画用紙全部に絵を描く(絵①)≫ ↑ 9)画用紙いっぱいに絵をかいて，色をぬる。(片すみに小さくかくだけでなく)	全盲	B	・網戸の上に置かれた紙の大きさを，触って確かめてから，クレヨンで描かせる。		【本プログラム1-2)-10)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。 ・色がわかる場合は「弱視」と同一の方法。		【本プログラム1-2)-10)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・机盤と画用紙の色にコントラストをつけ，境界に注意しながら描かせる。視野が狭い場合は，特別の配慮が必要。		【本プログラム1-2)-10)】

Step 5 中期	～ 4:11	≪色を使った絵を描く(絵②)≫ ↑ 10)クレヨンの色を使い分けて絵を描く。(K)(人などを描く。)	全盲	C	・「クレヨンなどを使って」なら○。 ・網戸のネットの上などに紙を置いて，クレヨンで描かせる。形を正確に表現することは難しいため，形にはとらわれない。色の使い分けは，難しいが，身近なものから，実物と色の結びつきを増やしていく。	【本プログラム1-2)-9)】	【本プログラム1-2)-11)】
			光覚～指数弁	C	・「光覚」は「全盲」と同一の方法。 ・手動弁・指数弁で色がわかる場合は，「弱視」と同一の方法。	【本プログラム1-2)-9)】	【本プログラム1-2)-11)】
			弱視	B	・クレヨンで，画用紙に描かせる。 ・実際の色と色名の結びつきを増やしていく。 【広D式弱視児用形体概念学習カード】の活用	【本プログラム1-2)-9)】	
Step 5 中期	～ 4:11	≪思ったものを絵に描く(絵③)≫ ↑ 11)自動車，花など思ったものを絵にする。(黒板に絵をかいて遊ぶ。) 【盲・光】	全盲	C	・描く前に描くものの名前を言わせ，レーズライターに描かせる。網戸の上に置かれた紙でもよい。 ・手を持って一緒に描き，確かめさせることで，平面に表現できるようにさせる。	【本プログラム1-2)-10)】	
			光覚～指数弁	C	・本プログラム1-2)-10)と同一の方法。	【本プログラム1-2)-10)】	

1．外界との関係　3)視覚以外の感覚刺激との結びつき

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step4 前期	～1:11	≪ものと音が一致する≫ ↑ 1)菓子のかんのふたをとる音を聞いて，すぐに，もらいにくる。 【盲・光】	全盲	B	・缶の音を聞かせ，その方向へ移動させる。 (対象物：連続的に音が聞こえるオルゴール・おもちゃ・ぬいぐるみの鳴き声→開ける時のみ音が聞こえるお菓子) (ステップアップ： 言葉とあわせて伝える。例)「ポン」など。→音だけ)	・音のする方へ体を動かしたり，顔を向けたりさせる。 ・欲しがるような声をだしたり，手を伸ばすようにさせる。	
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	

2. 対概念

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 4 前期	～1:11	≪大小比較①(3つ)≫ ↑ 1)3個の重ねおもちゃを順に入れる。	全盲	C	・バラバラにした3つの入れ子(コップ重ね)を子どもの前に提示し，順に入れさせる。 ・中と外の関係性を理解させるため，片手で器を持ち，もう一方の手で中を触って調べるように両手を使わせる。 (入れ子の大きさ:差が大きい→差が小さい) (入れ子の数:2個→3個) ・入れ子3個の中と外の関係性の理解が定着した段階で，入れ子の器の位置関係を変える。	①平面をスライドさせて入れ子を入れる。その際，指導者が入れ子を渡す。 ②キャップ型のブロックを両手でさしはずし。 ③缶のふたの開け閉め	【本プログラム2)-2)】
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	【本プログラム2)-2)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・あらかじめ視覚によって見比べてから，操作して確かめるようにする。 (入れ子:色を変える→縁をマジックで塗る→印無し)		【本プログラム2)-2)】
Step 4 中期	～2:5	≪大小比較②(5つ)≫ ↑ 2)5個1組の重ねおもちゃを順に入れる。	全盲	C	・本プログラム2-1)と同様の方法で，5個の入れ子を使用。 (ステップアップ:3個の入れ子→4個→5個)	【本プログラム2-1)】	
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム2-1)】	
			弱視	B	・本プログラム2-1)弱視用と同様の方法。	【本プログラム2-1)】	
		≪大小の理解≫ ↑ 3)大きい・小さい」がわかる。	全盲	B	【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ－3-Step2】 大きさが異なる2つの積み木を提示し，指示を聞いて，選ばせる。 積み木の形:球や立方体など。 大きさ:はじめは，(大)両手におさまるくらい。(小)片手におさまるくらいと，両手を使わせ，違いがわかりやすいものにする。 差:大きい→小さい ・積み木の大小の関係性の理解が定着した段階で，積み木の大きさを変える。(前回は，「大」だったものが，今回は「小」になる。) 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step1-2)-(1)大小の円(2)大小の正方形】 2枚の図形板(円および正方形)で「大きい」「小さい」の概念を教える。その後，図形板を左右入れ替えて，「大きい」「小さい」を指示し，選ばせる。 ステップアップ:選ばせる→答えさせる。 ・触察による弁別の方法を指導する。		＜3:06～＞ 【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-Step5-④】 ・大中小の3種類の積み木を提示し，指示に従う。 ＜4:00～5:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step2-6)-(1) 角度の大小】 ・2つの角度の大小について，感覚訓練プログラム1-Step1-2)-(1)大小の円(2)大小の正方形と同様の方法をとる。 ＜4:06～5:06程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム 1-Step3-8)-8-(1)大小弁別(3)角度の大小弁別】 ・長さが違う5枚の正方形(円)のカードを，大きい(小さい)順に並べかえさせる。 ・角度が違う5枚の角度のカードを，角が大きい(小さい)順に並べかえさせる。 ステップ:最高級・最低級の選び出し→間接比較
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・あらかじめ視覚によって見比べてから，操作して確かめるようにする。		・「全盲」と同様。

		≪多少の理解≫ ↑ 4)「多い・少ない」がわかる。	全盲	B	【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step2-5)-(2)】 ・5個の積み木を2つに分けて触らせ，数を数えて比べさせ，「多い」「少ない」の概念を教える。その後，左右入れ替えて，「多い」「少ない」か指示し，選ばせる。 ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・分けたものは，お皿に入れて，区別しやすいようにする。（提示物：ビー玉，おはじきなど） ・触察による弁別の方法を指導する。		①3組のセットのうち，最も数の多い（少ない）セットをあてさせる。（数の差：大→小） ②セットを3組を，数の順に並べさせる。 ＜5:00過ぎ～6:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step4-10)-(2)】 ・おはじきを貼った5枚の弁別カードのおはじきの数を比べさせる。その後，多い（少ない）順に並べかえさせる。 ステップ：最高級・最低級の選び出し→間接比較
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。 ・積み木と入れるお皿は，コントラストを明確にする。		
Step 4 後期	～2:11	≪長短の理解≫ ↑ 5)長い、短いがわかる。	全盲	B	【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-3-Step2】 2本の差のある棒を提示し，指示を聞いて，長い（短い）方を選ばせる。 ・棒の長短の関係性の理解が定着した段階で，棒の長さを変える。（前回は，「長」だったものが，今回は「短」になる。） ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・触察による弁別の方法を指導する。 ・高低と長短を区別させるようにする。		＜3:00過ぎ～4:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step1-4)】 ・2本の差のある直線カードを提示し，カードを縦・横方向に提示し，答えさせる。 ＜4:00～5:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step3-8)-(2)】 ・長さが違う5枚の直線のカードを提示し，長い（短い）順に並べ替えさせる。 ステップ：最高級・最低級の選び出し→間接比較
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。 弱視児で提示カードが見えにくい場合には，手に持たせ，見えやすい距離で，見させる。		
		≪高低の理解≫ ↑ 6)「高い・低い」がわかる。	全盲	B	【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step2-5)-(4)】　但し，後の段階 ・5個の積み木の数を2つに分けて比べさせ，「高い」「低い」の概念を教える。その後，左右入れ替えて，「高い」「低い」か指示し，選ばせる。比較の際には，基準点（机上や床上等）を確認させる。 ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・触察による弁別の方法を指導する。	高さの差が大きい2個のもののうち，見本と同じ高さのものを選ばせる。（差：大→小）	高さの異なる3個のもののうち，高い方（低い方）を選ばせる。 高い順に並べさせる。 （個数：3個→数個） （差：大→小） ＜5:00～6:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step4-10)-(4)】 ・5本の角柱の高さを比べさせる。その後高い（低い）順に並べかえさせる。盲児には，角柱をくっつけて並べ，上端を手で確かめさせる。 ステップ：最高級・最低級の選び出し→間接比較 ＜3:00～3:11＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-2-2)】 ・高い・低いの理解
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。	・「全盲」と同様。	・「全盲」の視覚障害幼児用感覚訓練プログラム同項目。

Step 5 前期	～3:11	≪重軽の理解≫ ↑ 7)例示前に，2個の具体物の「重い」「軽い」が分かる。(2／2)	全盲	B	【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-3-Step2】 重さの違う2個の物を提示し，持たせ，指示を聞いて，重い(軽い)方を選ばせる。 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step2-5)-(3)】 ・2つの重さの違う円柱を両手に持たせ，「重い」「軽い」という概念を教える。その後，2つの差のある円柱を提示し，指示を聞いて，重い，(軽い)方を選ばせる。 ・円柱の重軽の関係性の理解が定着した段階で，円柱の重さを変える。(前回は，「重」だったものが，今回は「軽」になる。) ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・手のひらに物をのせ，弁別する方法を指導する。		＜5:00～6:00程度＞【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム1-Step4-10)-(3)】 ・5個の円柱の重さを比べさせ，重い(軽い)順に円柱を並べ替えさせる。 ステップ：最高級・最低級の選び出し→間接比較
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。		・「全盲」と同様。
		≪遠近の理解≫ ↑ 8)「遠い・近い」がわかる。	全盲	C	1. 身近でよく行く所，2箇所のうち，今いる所から遠い(近い)方を選ばせる。 2. 机上で，1点を基準点とし，具体物を動かし，「遠い」「近い」という概念を教える。その後，2つの具体物を距離を変えて提示し，遠い(近い)方を選ばせる。 ・遠近の関係性の理解が定着した段階で，具体物を置く位置を変える。(前回は，「遠」だったものが，今回は「近」になる。) ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・遠近と長短を区別させるようにする。		・遠いところと近いところから音を出し，聞こえ方の違いに気づかせ，遠近を意識づける。
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。		
		≪深浅の理解≫ ↑ 9)「浅い・深い」がわかる。	全盲	C	・バケツに入れた深さの違う水を比べ，「深い」「浅い」という概念を教える。その後，左右入れ替えて，「深い」「浅い」か指示し，選ばせる。 ・水の深浅の関係性の理解が定着した段階で，水の深さを変える。(前回は，「深」だったものが，今回は「浅」になる。) ステップアップ：選ばせる。→答えさせる。 ・触覚で，弁別する方法を指導する。	・プールに入り，「浅い」「深い」を言わせる。	・5個のバケツに入った深さの違う水を比べさせ，深い(浅い)順に並べ替えさせる。 (ステップアップ：最高級・最低級の選び出し→間接比較)
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	
			弱視	B	・本プログラム2-3)弱視用と同様の方法。	・「全盲」と同様。	

3.　数量

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 4 中期	～2:5	≪数を数える①(3まで)≫ ↑ 1)指を出して年齢を数える。【盲・光】	全盲	B	・片手の指を1本ずつ，順にもう一方の手で押さえながら，年齢を数唱させる。		＜4:00～5:00程度＞ ・指の使い方は，【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム2-Step2-5)-(3)】 ・手のひらを広げさせ，指数の1から5までつくらせる。左右それぞれの手で，3回ずつ試行。 【本プログラム3-2)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
Step 5 前期	～3:11	≪数を数える②(10まで)≫ ↑ 2)順番をたがえず「10」まで数える。(紙に描かれた13の丸を10まで数える。(1／2))【盲・光】	全盲	B	・「玉差し盤にはめられた10個のペグ」なら○。 ・横一列に並べた10個のペグを，数えさせる。 (その他の対象物:厚紙に貼ったおはじき・並べた積み木・凸のあるシールなど)	【本プログラム3-1)】	【本プログラム3-3)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム3-1)】	【本プログラム3-3)】
Step 5 中期	～4:11	≪数を数える③(13まで)≫ ↑ 3)紙に描かれた13の丸を数えた後，「全部でいくつですか？」に正しく答えることができる。	全盲	C	・「玉差し盤にはめられた13個のペグ」なら○。 ・本プログラム3-2)と同様の方法で，質問に答えさせる。	【本プログラム3-2)】	
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム3-2)】	
			弱視	B	・本プログラム3-2)弱視用と同様の方法。		

4. ボディイメージ

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 3 後期	～1:5	**≪必要に応じて，自分の身体部位を動かす≫★** ↑ 1)衣服を着せてもらう時，必要に応じて腕と足を差し出す。	全盲	B	・衣服の着脱において，形に応じて，体を動かさせる。 ステップ:身体部位に触れながら「手を伸ばす」「足を曲げる」等の言語指示あり→言語指示のみ→なし		
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		
Step 4 前期	～1:11	**≪身体部位をさわる①(目，耳，口，その他，身につけているもの)≫** ↑ 2)目，耳，口，その他，身につけているものをたずねると，さす。	全盲	B	【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-Step1-①】 ・指示した自分の身体部位に触れさせる。身体部位:手・足・目・口・耳。 ・2つある部位は，両方触れさせる。 ステップアップ:触れる→指す ・容易な部分からはじめ，次第に増やす。「手足口→頭・顔の部分」		【本プログラム4－3)】 ＜歩行開始～2:00＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム A-1-1) ○身体部位の識別Ⅰ】 次の2つの方法で識別させる1)身体部位の名称を言葉で言う。2)指さす。
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法		・ボールを身体部位にくっつけて転がさせる。
		≪身体部位をさわる②(鼻・髪・歯・へそ・つめ)≫ ↑ 3)鼻・髪・歯・へそ・つめを指示する。	全盲	B	・視覚障害乳幼児用概念発達指導プログラム 4-2)と同様の方法。 但し，身体部位:鼻・髪・歯・舌・へそ・爪・口唇	【本プログラム4－2)】	＜2:06～3:06の間＞ 【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-Step2-②，Step3-④】 指さし①自分の身体で確認後，指導者の身体部位②自分と他人の身体部位を1カ所づつ。
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム4－2)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム4－2)】	・「全盲」と同様。

Step 4 中期	～2:5	≪身体部位の名前を言う（10種類）≫ ↑ 4）身体の部分の名前を，10種類~~見分けられる。~~	全盲	B	・「言う」なら，○。 【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅡ-Step2-②，Step3-④】 対象児の身体部位をさし，答えさせる。身体部位：頭・手・足・目・口・鼻・耳・ほほ・首・肩・背中・胸・腹・ひざ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-2)】 次の2つの方法で識別できるようにする。1）身体部位の名称を言葉で言う。2）指さす。身体部位：髪・歯・へそ・つめ・口唇など		＜2:06過ぎ～3:06＞ 【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ-2-Step3-⑤・⑥，Step4-⑦】 身体部位：頭・手・足・目・口・鼻・耳・肩・背中・腹 ①対象児の身体部位のうち1カ所指示を出し，連続して10の身体部位の指さし。 ②一度に2カ所ずつ出し，その順に，指さし。 ③一度に2カ所の身体部位を指示し，その順に指導者の身体部位の指さし。 ＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用言語指導プログラムⅢ--2-Step5-⑧】 ・自分と指導者の各身体部位をおりまぜて，指示を出し，連続指さし。10の身体部位を1組。 ＜2:00～2:11＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-3)】 ・2つの方法で識別できる。 1）身体部位の名称を言葉で言う。 2）身体部位の指さし。 身体部位：首，あご，肩，胸，背中，腹，胃，腰，臀部，腕，脚，もも，肘，ひざ，手のひら，手の甲，手指，指関節，足首，足先，かかと，くるぶし，向こうずね，足裏など ＜3:00～3:11＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-4)・ A-1-5)】 ・目，耳，頭，鼻，口，手，足等の身体部位を，指示どおり，連続して指さし。 ・簡単なからだ遊び。 身体部位：・目，耳，頭，鼻，口，手，足など ＜4:00～4:11＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-6)・A-1-7)】 ・身体部位を，指示どおり，連続して指さし。 身体部位：髪・歯・舌・へそ・爪・口唇など ・簡単なからだ遊び。 身体部位：髪・歯・舌・へそ・爪・口唇など 難易度の順 ○身体部位：(足・鼻・手・口)(顔の部分・肩・頭)(うで・脚・小指・ひざ・親指) ○身体面の識別：頭頂の裏・横腹・腹・背中 ○運動：(前に歩く・とび上がる)(後ろへ歩く)(腕を上げる)(ひざを曲げる・横へ歩く) ○手足の運動：うでをあげる・ひざを曲げる・しゃがむ・(ひじを曲げる・うでをのばす) ○身体と物体の関連：足・背中・頭・腹・横腹
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」の視覚障害幼児用言語指導プログラム同項目。

Step 5 前期	～3:11	**≪身体部位を絵に描く①（耳・脚・足・腕・手・眉毛・眼・頭髪・首筋のうち，3つ程度）≫** ↑ 5）顔らしいものを書いて，目，口などをつける。（人の絵を描いた時，耳・脚・足・腕・手・眉毛・眼・頭髪・首筋のうち，3つ正しく描ける。）	全盲	C	・この段階では，自分から絵で身体部位を表現するのは，困難。 1：立体のものを平面で置きかえさせる。 ステップ1）．立体 ＜全身＞立体の人形で，指示された身体部位を指し示させる。 ＜顔＞紙粘土などでつくった人の頭部（立体）の顔に，指示された顔の部位を貼らせる。顔の部位は，異なった素材がよい。 ステップ2）．平面 ＜全身＞ ①実物より小さい大きさの紙人形に，指示された身体部位にシールを貼らせる。紙人形の大きさは，全体が把握しやすい程度がよい。分からないときには，本児や指導者の体を触り，確かめさせる。 ②平面の身体部位を並べさせる。マグネットなどで固定できるようにする。 ＜顔＞ 平面の顔の上に，顔の部位（平面）を並べさせる。マグネットなどで固定できるようにする。 2.【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-8)】 人体の絵を触って，身体部位の名称を言わせる。		【本プログラム4－7)】
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム4－7)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・写真や単純化した絵を見せ，平面で表す表現を教える。。その後，クレヨンなどで描かせる。 ・はっきりしたコントラストになるように画用紙・クレヨンを選んで，描かせる。	＜3:00～4:00程度＞ 【保有視機能活用指導プログラム　領域7-9-8)人形・絵の身体部位の識別】 人形や絵の身体部位を指示どおり，指さし。 ステップアップ：指差し→シール貼り	【本プログラム4－7)】
Step 5 中期	～4:11	**≪身体を中心にした左右を言う≫** ↑ 6）左右がわかる。	全盲	B	【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-2-4)】 左右の理解。1）自分を中心とした平面上の左右の理解。2）身体の左右に置かれた物の名称を言わせる。物を取らせる。3）指示どおり，左右へ物を置く。		＜5:00～7:00＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-8)】 ・左右の身体部位の名称を言ったり，指ささせる。 身体部位：左目・右目・左手・右手・左足・右足など 1．身体の右（左）を，身近な物体や面に向けさせる。（例「あなたの右耳を，壁にむけてください。」） 2．身体を固定したままで，いろいろな物体を身体の左側（右側）にもってくる。（例「箱を左手にもちなさい。」） 3．対象児の位置は一定のままで，物体の左右を識別する。（例「テーブルの右側をさわりなさい。」） 難易度の順 ○身体部位（左右）：うで・足・ひざ・脚・耳 ○物体の体に対する関連（左右）　：手・足・ひざ・耳など ○物体の左右：箱・机・本など
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		

Step 5 中期	～4:11	**≪身体部位を絵に描く② (耳・脚・足・腕・手・眉毛・眼・頭髪・首筋のうち，6つ程度)≫** ↑ 7)人の絵を描いた時，耳・脚・足・腕・手・眉毛・眼・頭髪・首筋のうち，6つ正しく描ける。	全盲	C	【始歩一白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-8)】 5:00～7:00 ・人体を描かせる。耳・脚・足・腕・手・眉毛・目・頭・髪・首すじのうち6つ程度描ける。レーズライターなどでフィードバックさせるとよい。 ステップ：身体部位を分けた人のパズルを合わせる。→人体を描く。	【本プログラム4－5)】	<5:00～7:00> 【始歩一白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-1-8)】 ・人体を描かせる。 ・人体の絵を触って，その身体部位を言わせる。
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・本プログラム4-5)弱視用と同一の方法。	・「全盲」と同様。	

5. 基本図形

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 3 前期	～1:2	≪はめ板をはずす(円)≫ ↑ 1)はめ板の円板をはずす。	全盲	B	・片方の手で円板の位置を確かめ，もう一方の手を持っていき円板をはずす。		
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 はめ板と枠に色を塗り，コントラストを明確にする。		
		≪はめ板をはめる①(円)≫ ↑ 2)はめ板の円板をはめる。	全盲	B	・片方の手ではめる位置を確かめ，もう一方の手で，はめ板をはめさせる。 はめ方のステップ:「枠をつけて，スライドさせてはめる」→「探索しながらはめる。」		【本プログラム5－4)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム5－4)】
			弱視	B	【保有視機能活用指導プログラム　領域6-5】 円孔を指さして，指示どおり，はめさせる。 はめ板のはめられる側の側面にはっきりとした色を塗るなどして，分かりやすくする。		【本プログラム5－4)】
		≪角孔に丸棒を入れる(孔入れ①)≫ ↑ 3)課題箱の角孔に，見本を見た後，丸棒を入れる。(1／3)	全盲	B	片方の指で，角孔の入り口を確かめさせながら，課題箱の孔に，丸棒を入れさせる。 丸棒の長さ:「短い」→「長い」 丸棒の太さ:「太め」→「細め」		【本プログラム5－6)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム5－6)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム5－6)】
Step 4 前期	～1:11	≪はめ板をはめる②(三角形・四角形・円)≫ ↑ 4)はめ板を回転し，三角形・四角形・円形のはめ板全て合わせられる。(1／5)	全盲	B	・本プログラム5-2)と同一の方法。はめ板の数:「1つ」→「2つ」→「3つ」 はめ板と枠の形や曲線・直線部，角の違いをよく触らせる。	【本プログラム5－2)】	<2:06～3:06> 【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅠ-3-Step3-14】 ・□△☆などのはめ板を，はめさせる。
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5－2)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	【保有視機能活用指導プログラム　領域6-6-2)，3)】 ・「○△」，「○□」の板はめ・「○△□」の板はめ	【本プログラム5－2)】	・「全盲」と同様。
		≪ぐるぐる丸を描く≫ ↑ 5)鉛筆，クレヨンでぐるぐる丸をかく。	全盲	B	【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step1-1)】 ・はじめは，手を持って描かせ，その後，クレヨンを持って描かせる。		
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		

Step 4 中期	～2:5	**≪角孔に角板を入れる(孔入れ②)≫** ↑ 6)課題箱の角孔に角板を入れることができる。	全盲	B	・本プログラム5-3)と同一の方法。角板を使用。 角板の長さ:「短い」→「長い」	【本プログラム5－3)】	
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5－3)】	
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5－3)】	
		≪縦・横線を描く≫ ↑ 7)~~真似て~~横線・縦線を描く。(1／3)(まねて直線を引く。)	全盲	B	・「真似て」がなければ○。 1.【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step1-2】 はじめに手を持って，縦横線をひく。その後一人で，クレヨンをもち，縦・横の線を引かせる。 2. 凸図を使い，縦・横線を触らせる。 【始歩一白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-2-1)】 ・縦や横の凸直線の指たどり。・横縦の弁別。		
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・太いクレヨンで大人が描くのを，見せて描かせる。 ・クレヨンと紙のコントラストを明確にする。		
Step 4 後期	～2:11	**≪基本図形の形あわせをする≫** ↑ 8)~~三角形・四角形・円・半円・十字形のうち，1つの図形で~~同じ形を選べる。(8/10)	全盲	C	・「三角錐・立方体・球のうち一つの形で」なら○。 ・2種類の形を提示し，同形の形を選ばせる。 ・ステップ:球→三角錐→立方体		・選択図形(図形板)を提示し，刺激図形と同じ図形を選ばせる。 図形のステップ:「三角形・四角形・円」→「半円・十字」
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	【保有視機能活用指導プログラム　領域6-7-5)】 2種類の図形板を提示し，同形の図形板を選ばせる。(図形板:黒く塗られた円・正三角形・正方形・十字形) 図形のステップ:「三角形・四角形・円」→「半円・十字」		
		≪丸を描く(図形描き①≫ ↑ 9)~~まねて~~○をかく。(1／3)	全盲	B	・「まねて」をとると○。 ・凸図を示した後，手を持って描かせる。その後，一人でクレヨンで描かせる。		【本プログラム5-11)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム5-11)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム5-11)】
		≪応用図形の形あわせをする①≫ ↑ 10)三角形・正方形・台形・平行四辺形・八角形・円・だ円・半円・十字形の図形で同じ形合わせができる。(8／10)	全盲	C	・「三角錐・立方体・球のうちすべての形で」なら○ ・本プログラム5-8)と同一の方法。		・選択図形(図形板)を提示し，刺激図形と同じ図形を選ばせる。 【本プログラム5-13)】
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	C	【保有視機能活用指導プログラム　領域6-7-5・6)】 ・2種類の図形板を提示し，同形の図形板を選ばせる。(図形板:黒く塗られた円・正方形・長方形・台形・平行四辺形		＜3:00～4:00程度＞ 【保有視機能活用指導プログラム　領域6-9-9)】 ・手に持った8種類の図形板と同形のものを探して，重ねさせる。(図形板:黒く塗られた円・だ円・正三角形・正方形・長方形・台形・平行四辺形・八角形)

Step 5 前期	～3:11	≪一つの丸を描く(図形描き②)≫ ↑ 11)鉛筆，クレヨンで丸をかく。(1つの丸であること)	全盲	B	【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step4-4)】 レーズライターに，ボールペンで円を描かせる。始点を指先で押さえ，再びペン先が戻ってくるようにさせる。線が切れていないか，確認させる。	＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step4-4)】 ・レーズライターに，ボールペンで円・縦横線，点結びなどを描かせる。点結びの際，盲児には，利き手と反対の手で，始点・終点に触らせるようにする。 ・十分に描かせる時間をとる。 【本プログラム5-9)】	【本プログラム5-12)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	・「全盲」と同様。	【本プログラム5-12)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法をとり，クレヨン・色鉛筆と用紙使用。	＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step4-4)】 ・弱視児には，線を見させるようにする。 【本プログラム5-9)】	【本プログラム5-12)】
		≪十字を描く(図形描き③)≫ ↑ 12)十字をかく。	全盲	B	・本プログラム5-11)と同一の方法。	【本プログラム5-11)】	【本プログラム5-14)】
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5-11)】	【本プログラム5-14)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5-11)】	【本プログラム5-14)】
		≪応用図形の形あわせをする②≫ ↑ 13)三角形・正方形・台形・平行四辺形・八角形・円・だ円・半円・十字形の図形で同じ形合わせができる。(10／10)【弱】	全盲	D	・細かい図形の弁別は，この段階では不可能。	【本プログラム5-8)】	＜4:00～5:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム4-Step3-5)盲児用】 ・選択図形を触察させた後，刺激図形を手渡し図形を覚えさせる。そして再び選択図形を提示し，刺激図形と同じ図形を選ばせる。(図形カードは凸図：刺激図形6枚，選択図形8枚。正方形・円・正三角形・だ円・直角三角形・長方形・ひし形・平行四辺形・台形)
			光覚～指数弁	D	・「全盲」と同様。	【本プログラム5-8)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・本プログラム5-10)と同様の方法	【本プログラム5-10)】	【同プログラム同一項目弱視児用】 6枚の図形カードを提示した後，刺激用のカードを提示して，同じ図形を選択させる。 ・図と台のコントラストを明確にする。

Step 5 中期	～4:11	≪正方形を描く(図形描き④)≫ ↑ 14)見本どおり正方形を描く。(1／3)	全盲	C	・凸図を示した後，手を持ってレーズライターで描かせる。その後一人でレーズライターで描かせる。	＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step4-4)】 ・レーズライターに，ボールペンでぐるぐる丸・縦横線，斜め線などを描かせる。 ・十分に描かせる時間をとる。 【本プログラム5-12)】	＜5:00過ぎ～6:00程度＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム3-Step5-10)-(2)】 ・凸図の図形カードを記憶させ，レーズライターの上に同じ形をボールペンで書かせる。 図形：正方形・長方形・正三角形・直角三角形・円・だ円 ・左手で描きはじめを押さえさせたり，描いたあとを確かめさせたりするとよい。
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム5-12)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。	＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用手指運動訓練プログラムⅢ-Step4-4)】 ・弱視児には，線を見させるようにする。 ・クレヨンなどでもよい。 【本プログラム5-12)】	・「全盲」の【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム同一項目弱視用】 ・図形カードを記憶させ，色鉛筆で描かせる。図形は全盲用と同様。
		≪三角形で四角形をつくる≫ ↑ 15)見本と同じように，三角の積み木を合わせて四角をつくる。(2／3)	全盲	C	【視覚障害幼児用感覚訓練プログラム2-Step4-12)-(2)】 刺激図形板を触らせながら，三角形の図形板を組み合わせ，四角形をつくる。図形板は，裏返しさせない。または裏がわかるように，表裏の素材を代える。 枠：あり→なし		＜5:00過ぎ～6:00＞ 【同プログラム同一項目】 図形の形：円→平行四辺形→ひし形→台形→五角形→だ円
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同じ方法。		・「全盲」と同様。

6. 空間

発達段階	年齢	達成目標	視覚障害の程度	影響を及ぼす程度	指導内容・方法(例)	前段階の学習	発展学習
Step 3 前期	～1:2	**≪室内の方向・位置の弁別・探索≫** ↑ 1)テーブルをまわって，欲しいものを取りにいく。【盲・光】	全盲	C	【発達段階別歩行指導法・領域2-Step3-3，4】 ・子どもが興味を示している物を同じ場所に置き，自分で探しに行かせる。 ・方向・位置関係の把握のため，生活上，毎日繰り返す動作は，同じ位置で同じ方向を向かせ，行わせるようにする。また，学習や食事の時の机・椅子の位置などを一定にする。MDデッキや時計をいつも一定の位置に置き，一定の方向から音を出すなどの環境づくりに気をつける。その際，柱の角にラバーを貼るなど安全に注意する。 ステップ：狭い空間→広い空間		
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
		≪場所の弁別≫★ ↑ **2)よく知っている場所にくると教える。(自分の家の前に，または，菓子の戸棚の前に来ると指さしたり，「アーアー」といって教える)**	全盲	C	・家の中では，床の敷きものや，扉に貼るものは異なった材質にする。コーナーごとに変えるのもよい。部屋やコーナーごとに印(好きなおもちゃや鈴)などをつけて，目印にするなどの環境づくりに気をつける。 ・外では，感触の違いやにおい・音を意識させる。		
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		
Step 4 前期	～1:11	**≪位置関係の理解①(2つ)≫** ↑ 3)2個のコップの1つにおもちゃを隠し，コップを動かしても玩具の位置が分かる。(2／3)【弱】	弱視	B	・コップを2つ並べてふせ，おもちゃの犬をコップに入れる。左右の位置をずらし，犬の位置を答えさせる。		【本プログラム6-4)】
		≪位置関係の理解②(3つ)≫ ↑ 4)3個のコップの1つにおもちゃを隠し，コップを動かしても玩具の位置が分かる。(2／3)【弱】	弱視	B	・本プログラム6-3)弱視用と同一の方法。コップは3つ使用。	【本プログラム6-3)】	【本プログラム6-7)】

Step 4 中期	～2:5	≪上・中・下・左・右の理解(2つ)≫ ↑ 5)上・中・下・前・後の位置関係を示すことばのうち，二つはわかる。	全盲	C	1. 自分の身体における関係 指示どおり，自分を中心とした前後または自分のへそを中心とした上下に，手を伸ばさせる。 2. 自分と離れた空間関係 【視覚障害幼児用言語指導プログラム　Ⅲ-3-Step3】但し，この段階の後 ・小さな箱を2つ重ねておき，指示どおり，「上」「下」の箱をとらせる。 ・指示どおり，積み木を「前」「後」に置かせる。		・2段の棚の上下，3段の棚の上中下に指示どおり物をおかせる。 ＜3:00～3:11＞ 【始歩ー白杖導入期用盲児歩行指導プログラム　A-2-2)】 ・自分を中心とした前後の理解。 ・自分のへそを中心とした上下の理解。 【発達段階別歩行指導法・領域2-Step4-3】 ・指示どおり，手を「上」「右」などに向けさせる。 ・音の出る方向へ手を向けたり，言葉で言わせる。歩かせる。 ステップ： (自分との位置関係)「自分の身体」→「自分に接する物」→「自分と離れた空間の上中下前後の関係」
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		
Step 4 後期	～2:11	≪積み木でトラックをつくる(積み木①≫ ↑ 6)積み木のトラックを真似てつくる。 	全盲	C	・見本のトラックを触らせた後，4個の直方体の積み木でトラックをつくらせる。見本は崩れないように固定したものも準備する。見本を触らせ，つくったり，直させるのもよい。マグネットつきの積み木を使用してもよい。		【本プログラム6-8)】
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム6-8)】
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		【本プログラム6-8)】
		≪位置関係の理解③(3列×3行)≫ ↑ 7)3列3行の記憶板にある絵の位置が分かる。(2／3)	全盲	B	・「横3つに並んだ箱の中にある1コの積み木」なら○。 ・横3つに並んだ箱のふたを順番に開けて，積み木がある位置を確かめさせる。覚えたら，見本の積み木を探させる。		
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。 ・箱と積み木のコントラストを明確にする。	【本プログラム6-4)】	
		≪積み木で家をつくる②≫ ↑ 8)積み木で複雑に組み立てる。 	全盲	B	・本プログラム6-6)と同一の方法。	【本プログラム6-6)】	＜3:06～4:06＞ 【視覚障害幼児用感覚訓練プログラムⅣ－3-Step4-5)・6)】 ・立方体(2コ)と直方体(3コ)の積み木をつかって，橋を組み立てさせる。 ・立方体(6コ)と直方体(3コ)の積み木をつかって，橋を組み立てさせる。
			光覚～指数弁	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム6-6)】	・「全盲」と同様。
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。	【本プログラム6-6)】	・「全盲」と同様。

Step 5 中期	～4:11	**≪横に並んだものの位置を覚えてたたく≫** ↑ 9)例示後，4つの積み木を見本と同じように位置を覚えて，叩くことができる。(例：隣り合う，1つ飛ばし)(3／12)	全盲	C	・「片手で積み木を触りながら，もう片方の手で叩く。」なら○。 ・横一列に並べた積み木を，叩く順番を覚えて叩かせる。ブロックなど固定できるものに置き換えてもよい。		
			光覚～指数弁	C	・「全盲」と同一の方法。		
			弱視	B	・「全盲」と同一の方法。		